

令和3年12月14日

山形県看護推進議員連盟

会長 伊藤 重成 殿

山形県看護連盟

会長 伊藤 加代子



要望書提出について

山形県看護連盟は、令和3年9月、新型コロナウイルス感染症の第5波の真ただ中で奮闘する全会員916名に対し、実態把握のためのアンケート調査を実施しました。

調査結果から、いくつかの課題が明らかとなりました。

1. 防護具、マスク、消毒薬等は、昨年よりは入手し易くなっているが、使用基準を設けて使用する等、感染防止本来の使用方法に対応する量は供給されていない。価格の高騰があり、財政圧迫を懸念する声も多い。感染リスクの高い職場で働く看護職にとっては、自身の健康管理とともに防護具等が十分に使用できることが求められる。
2. 県内の看護職の人材不足は以前からあり、コロナ禍により深刻な状況に陥っている。現場では多重業務により勤務変更や時間外勤務の増大があり、新人育成にかかる時間も十分に取れない状況がある。看護の質と安全性の確保のための人材確保とともに新人の離職対策も必要である。
3. 看護職配置の少ない中小規模病院や精神科病院、高齢者施設、訪問看護ステーション等は、施設内での陽性者やクラスターが発生した時の支援体制に不安を持っている。
4. 業務量に見合った給料になっていないという声が多かった。11月、政府では、看護職、介護職、保育士の処遇改善の方針を打ち出している。当県は、公的病院が多く看護職の処遇については県立病院の方針決定に左右される状況がある。

以上の課題より、下記のことを要望し、自らの危険を顧みず業務に従事している看護職に、ご理解をいただきますようお願いいたします。

- | | |
|-----|--|
| 要望1 | 今後の感染拡大に備え、県全域の医療機関、診療所、訪問看護ステーション、高齢者施設等に対して、十分な感染対策物品が確保できるよう、新型コロナウイルス感染対策の交付金の配分をお願いしたい。 |
| 要望2 | 県内の看護師確保対策事業(サポートプログラム)のさらなる強化をお願いしたい。保健所の保健師増員計画の確実な実現と業務量に応じた支援体制の構築をお願いしたい。 |
| 要望3 | 地域での感染拡大防止のための医療機関・介護施設・訪問看護ステーション・行政との情報共有、支援体制、連携について「見える化」を図り広く周知することで、安心して働ける環境づくりをお願いしたい。 |
| 要望4 | 看護職の処遇改善について、政府の方針に基づいて速やかに実現されることをお願いしたい。 |